

「学校を出よう！」

- 趣 旨**：ボランティア活動について理解を深めるとともに、ボランティア活動をするために必要な知識・技術を学ぶ。また、今後のボランティア活動についての意欲を高め、青少年教育施設や地域社会等で活動できるボランティアを育成する。
- 日 時**：令和3年12月18日（土）10：00～19日（日）16：30
- 場 所**：国立淡路青少年交流の家
- 対 象**：ボランティア活動に参加したい、もしくは興味のある人
- 参加者**：20名
- プログラムの内容**：

1日目

10：00～ 開講式・チェックインミーティング

まず、交流の家職員によるチェックインミーティングからセミナーが始まった。「Q. セミナーへの参加動機は？」や「Q. 学校を出るって？」などの問いかけに対して、参加者一人一人が自分の思いを言葉で表現していった。

緊張の表情を浮かべながらも、積極的に取り組もうとする参加者が多く、お互いのことを知るよいきっかけとなった。



10：30～ 野外炊事（オリジナルピザづくりに挑戦！）

次に交流の家が出張事業で行っているピザづくりに挑戦してもらった。今回は交流の家職員の指導は安全管理に関することにとどめ、メタルマッチを用いた火おこしの方法等、自分たちの力だけでピザづくりを行ってもらった。ピザの生地づくり、トッピングは各グループで、時にはグループの垣根を越えて協力しながら行っていたが、メタルマッチを用いた火おこしには苦戦していた。しかし、どのグループも火が付くたびに歓声を上げて喜んでおり、最終的にはおいしそうなおオリジナルピザが完成した。



15：00～ 講義・演習『ここってどんな施設？学校との違いは？』

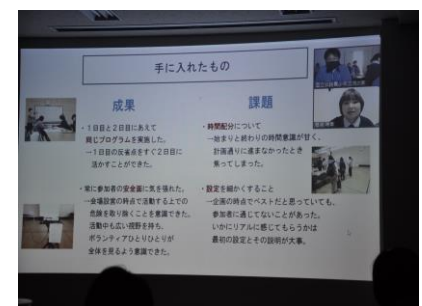
野外炊事後は、「ピザづくり」と「学校の授業」の特徴をあげていき、学校教育と社会教育の違いについて考えた。参加者は自分たちで取り組んだピザづくりを通して、「体験を通して学ぶ」「自由な発想でできる」「答えはない」等、社会教育の特徴に気づけたようだ。また「主体的・対話的で深い学びとは？」との問いかけに対しグループ協議を行っている最中に「答えのない問いをみんなで考える機会がもっとほしい」との意見が出たことが印象的だった。



16：00～ 講義・演習『淡路でできるボランティアの紹介』

前半は淡路の代表的な4つの教育事業「映画を創ってみよう！」、「AWAJI未来探検隊」、「親子ちゃれんじ」、「うずしお交遊塾」、「ジュニアチャレンジ防災淡路島サバイバル（仮称）」について、本年度の事業主担当から紹介をした。どの教育事業も報告書を基に主担当の思いを直接伝えることで、多くの参加者が淡路の活動に興味を持ってくれたようである。

後半は昨年度自主企画を行ったボランティアが、自主企画の内容やそこから学んだことをzoomで発表した。参加者は新しいボランティアの方法に触れ、話に聞き入っていた。



19:00～ たき火トーク!

1日目の最後には野外炊事で学んだ火おこしの方法を生かし、たき火を行った。メタルマッチの使い方にも慣れ、なかなか上手くいかない人がいれば、コツを教える参加者もいた。火が起こったあとは、温かい飲み物を片手にマシュマロを焼いて食べ、参加者同士の交流を深めた。

2日目

9:00～ 講義・演習『安全管理講習』

安全管理講習ではボランティア活動に携わるにあたって重要な内容を体験型で実施した。「リスクマネジメント」、「救急法」の2つの内容を、講義や実技によって学んでもらった。

リスクマネジメントでは、昨日行ったたき火についてボランティアの立場で振り返り、「安全管理」の視点を実感してもらえたと思う。救急法では、淡路広域消防事務組合消防署から講師をお招きし、心肺蘇生法の実習を行った。

ボランティア活動中や、日常生活で実際に起こり得る事例ということもあって、どの参加者も真剣に取り組んでいた。



13:00～ 講義・演習『学校を出るとどんな出会いが待ってるの?』

最後は2日間の振り返りで、ボランティア活動についてのCM作りを行った。「誰にどのような内容を伝えるのか」具体的に考えていくことで、効果的な写真や動画、テロップを各グループで考え、最終的に1分程度のCMが完成した。どのCMにも「淡路で一緒にボランティアをしよう!」「まず第一歩を踏み出してみよう!」といったメッセージが込められており、この2日間で「学校では得られない何か」をつかんでくれたと実感できた。



7 参加者の声

- ・参加型の講義が多く、意見交換の場も沢山あったので充実した2日間になりました。
- ・大事なところは伝えてくれるけど、自分で考えることがメインだったところが新鮮で良かったです。
- ・ボランティアの世界には足を1歩踏み入ただけで、まだまだ知らないこともあるし、色んなことに参加したいです。
- ・失敗を恐れずなんでも挑戦することが大事だとわかりました。
- ・普段の生活では絶対出来ないような経験ができて、年齢も住んでいる所も違う人達と仲良くなれて、自分の世界が広がりました。
- ・もっと子供や親子とふれあいたいと思ったし、防災のことも関心があまりなかったけど、参加してみたいと思いました。

8 所感

- ・セミナーの満足度は高く、今回の参加者が今後の教育事業にボランティアとして参加してくれると期待している。
- ・「参加型の講義が多い」や「失敗を恐れない」、「普段の生活ではできない体験」等の感想があったことから、今回のねらいである「学びは学校の外にもあることに気づく」は達成できたと感じている。
- ・ほぼ全員の参加者が新たに法人ボランティア登録をしているので、今後開催予定のボランティア募集の案内を行い、今後の定着につなげたい。
- ・施設職員、淡路の法人ボランティアで事業に取り組んだので、新たな法ボラを育てていく意識が共有できた。